

「明治150年」の関連イベントを開催します



「明治150年」関連施策推進ロゴマーク

本年、平成30年（2018年）は、明治元年（1868年）から起算して満150年に当たりります。明治以降、近代国民国家への第一歩を踏み出した日本は、多岐にわたる近代化への取り組みを行い、国の基本的な方針を築き上げていきました。また、多くの若者や女性等が海外に留学して知識を吸収し、外国人から学んだ知識を活かしつつ、単なる西洋の真似ではない、日本の良さや伝統を活かした技術や文化も生み出されました。一方で、昨今に目を向ければ、人口減少社会の到来や世界経済の不透明感の高まりなど激動の時代を迎え、近代化に向けた困難に直面していた明治期と重なっています。

そこで「明治150年」を節目として、改めて明治期を振り返り、将来につなげていくことを目的として、政府一体となって関連施策を推進しています。詳しくは「明治150年」ポータルサイトをご覧ください。



「明治150年」ポータルサイト

厚生労働省においても、検疫所、日本赤十字社、国立感染症研究所におけるイベントの開催や老人の日・老人週間における行事を活用した「明治150年」関連キャンペーンの実施等を予定しております。民間団体においても、「明治150年」に関する取り組みが実施される予定です。詳細が決まり次第、厚生労働省ホームページなどでお知らせします。

図表 厚生労働省・民間団体において実施する「明治150年」関連施策の概要

施策名	施策の概要
検疫資料館保存等事業（仮称）	明治以降の日本の検疫制度を後世に引き継いでいけるよう、厚生労働省が管理する検疫資料館について、必要な保存、活用などを行います。
検疫記念日関連行事を活用した明治150年関連事業の実施	「海港虎列刺（コレラ）病伝染予防規則」の公布された日（明治12年7月14日）を記念した検疫記念日に、検疫所において明治150年関連の行事を行います。
日本赤十字社における関連施策の実施	日本赤十字社の常設展示場「赤十字プラザ」において、明治期に関する関連資料の特別展示を実施。日赤が会員向けに発行している新聞での特集号の刊行、日赤ホームページにおいて明治期の写真や文献の掲載を行います。
国立感染症研究所における明治期の感染症対策に関するシンポジウムの開催	国立感染症研究所において、明治期以降の感染症対策をテーマとしたシンポジウムを開催します。
老人の日・老人週間における行事を活用した「明治150年」関連キャンペーンの実施	老人福祉法に定める老人の日および老人週間では、①国民の間に老人の福祉への関心と理解を深める②老人が自らの生活の向上に努める意欲を促すことを目的として、各地でさまざまな行事やポスターの掲示などの広報活動を行っています。この活動の一環として、「明治150年」を記念した取り組みを実施します。
医薬品企業の資料館における展示等	江戸・明治期から続く医薬品企業が有する資料館等において、「明治150年」に関連した展示等を実施します（予定）。